



移住定住策

問 人口減少対策の一つである移住定住を促進するための取組状況および今後の方向性を伺います。

答 総合政策部長 主な事業として①三世代同居等をするために、市内へ転入した方の住宅取得等費用を補助する「三世代同居等支援事業」②市内における婚姻件数の増加を目的とし、住宅の取得または賃借および引っ越し費用を補助する「結婚新生活支援事業」などを実施しています。

事業の周知策としては、山武市移住定住ポータルサイトを開設し、本市の紹介や千葉県移住相談会の案内など、参考情報を掲載しています。

このほか、子育て支援事業として、保健師等の母子コーディネーターによる産前産後のケアや子育て情報の提供など、妊産期から子育て期まで、切れ目のない相談支援を実施しています。

今年度からの新規事業としては、都内等から山武市に移住し、かつ、市内で就業・起業・テレワーク等を実施する方に対して、移住に要する経費を補助する「U・I・Jターンによる起業・就業者等創出事業」を実施します。

事業仕分けの必要性

問 持続可能な財政運営のために、現在の事務事業の内容を見直す必要があると考えますが、見解を伺います。

答 総合政策部長 人口減少や少子高齢化等による影響もありますが、本市の予算編成は、年々増加傾向にあり、今年度の予算総額は、町村合併当初より約28億円の増加となっています。

厳しい財政状況において、限られた財源を効果的に配分し、より発展的な政策立案をしていくためには、既存事業の見直しの必要性を感じています。

答 市長 行財政改革の抜本的な見直しを、ハード面とソフト面の両面から進めていきたいと考えます。

経営資源には限りがあり、すべての施策・基本事業を等しく向上させることは困難ですので、メリハリのある経営資源配分を行い、新たな財源を生み出すため、今年度より事務事業全般の見直しに取り組んでいきます。

教育施策

問 コロナ禍後における学校教育

について、教育長の教育方針を伺います。

答 教育長 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、現在の学校生活は、コロナ禍前の様子を取り戻しつつあります。コロナ禍前の様子を取り戻しつつあります。教員の働き方改革が大きな問題になっている今、学校業務の効率化は必要不可欠ですが、効率化ばかりを優先して、活動の根本となる目的を見失ってはいけないと感じています。

子ども達は、学校行事によって、教科の学習とは違った多くのことを学び、その経験から伸びる子もいます。行うべき行事は、きちんと行う必要があると考えます。

業務の効率化を図りながらも、児童生徒にとつて、大事な活動、価値のある取組には、以前にも増して、しっかりと取り組んでいくという方針のもと、これからも学校を指導していきます。

問 学校に整備されたICT機器を、今後どのように活用していくのか伺います。

答 教育長 GIGA端末の活用が、令和3年度に開始され、教員、児童生徒が操作に慣れてきたところです。

今後は、さらに効果的な活用を目指し、例えば、AIを活用した学習の可能性などを研究しているところです。

また、児童と児童をつなぎ、意見交流や議論などの場面で活用したり、別の教室とつないで、合同の授業を行ったり、さらには、他の学校とつなぎ、多くの児童生徒と交流する学習など、ICTの活用

の幅を広げていきたいと考えます。

クーリングシエルトーの設置

問 ここ数年、夏の暑さが厳しさを増しており、令和3年からは熱中症警戒アラートの発表も実施されていますが、市が取り組む熱中症対策を伺います。

答 市長 来年度には、改正気候変動適応法の施行が予定されており、熱中症のリスクが高まる場合に、注意を促す特別警戒情報の法定化や暑熱から避難するための施設の開放措置など、熱中症対策を強化する仕組みが創設されます。

本市では、市民の生命の安全を第一に考え、今年度からクーリングシエルトー（ひんやりスポット）の設置を予定しています。

答 保健福祉部長 クーリングシエルトーの設置期間は、本年7月1日から9月30日までの3か月間、開設時間は各施設の開放時間とし、冷房設備が整い、休憩できるスペースを擁した市内4か所の施設の開放を計画しています。



ひんやりスポット（成東文化会館）